

学術情報へのアクセス向上を目指して—機関リポジトリのいま

タイ—社会科学文献のオープンアクセス

石井美千子

タイにおける学術情報、またはタイに関する学術情報は、インターネット上での程度閲覧可能か。レント大学が作成している世界のオープンジャーナルのリスト(D OAJ)の国別採録雑誌リストを見てみると、タイの雑誌は六点あるが、すべて自然科学系の雑誌である。スタンフォード大学図書館のHighWire Pressは学術誌だけでなく産業関連のサイト情報等も収録している。ソースの国別リストはないので、Thailandという言葉を含む記事を検索してみると約三五〇〇点ヒットするが、タイの雑誌はほとんど見当たらない上、採録されているのはやはり自然科学系の記事が大半を占めている。

それではタイ本国での状況はどうだろうか。Thailis (Thai Library Integrated System)は教育省高等教育委員会の主導で創設されたタイ二四大学のコンソーシアムで、各大学の学術論文のリポジトリを共有している。ただし外部の者が全文を見るには登録した上でCD-Romで購入しなければならぬ。チュラロンコン大学が作成している機関リポジトリ(別添リスト①)、

以下同様)はたいへん見やすい作りになっているが、収録論文の全文閲覧は学内限定で、外部利用者が無料で閲覧できるのは要約まで。各大学のサイトでもこの傾向は同様で、学術誌が完全にオープンにされているところは少ない。

●オープンアクセスの事例—大学

しかし、タイの有力大学や研究機関のサイトを調べてみると、わずかではあるが、オープンアクセスを実現している例がある。ここでは、社会科学系の雑誌論文、研究論文、学位論文を全文公開している事例を把握できた限り紹介したい。

多くの大学が要約までしか外部公開していない中で、チェンマイ大学とコンケン大学は学位論文や研究論文のフルテキストを公開している。

チェンマイ大学のCMUe-Theses(②)には一九八一年から二〇〇六年までの論文(タイ語四二八点、英文二〇二点)が収録されている。細かい分野別に件数が表示されるが、教育関連が最も多く約一五〇〇件あり、経営学(約九〇〇件)、経済学(約

七五〇件)も多い。

コンケン大学のiKnowledge Digital Contents Management System(DCMS)(③)には、分野別リストがなく収録件数は確認できないが、ちなみに「経済」で検索すると、約三〇〇件ヒットする。

両サイトともタイトル、著者名、件名などからの検索も可能である。

ほかに、NIDA(国立開発行政大学院)のサイトでは、今までに発表された研究論文やNIDAの学術誌掲載論文から傑出したものを選択してフルテキストで公開している(二八点)(④)。また論文ではないが、タマサート大学図書館のサイトにはE-RareBooks(⑤)という電子図書館があり、一八六六年から一九六六年までに発行された約一二〇点の稀覯本を全文見ることができている。

なお、大学発行の学術誌、ペーパー資料には独自の判断で全文を公開しているものがある。主要大学発行のある程度公開件数がまとまっているものを、別添リストにあげておく。(⑥~⑩)

別添リスト

- ① **Chulalongkorn University Intellectual Repository**
<http://cuir.car.chula.ac.th/> (未登録の場合は Abstract のみ)
- ② **CMU e-Theses** (Chiang Mai University)
http://library.cmu.ac.th/digital_collection/theses/index.php
- ③ **iKnowledge Digital Contents Management System (DCMS)** (Khon Kaen University)
<http://202.28.92.232/dcmsth/main.nsp?view=DCMS>
- ④ **บทความวิชาการดีเด่น ดี ชมเชย นิด้า** [NIDA 優良研究論文] (NIDA)
<http://library2.nida.ac.th/Npaper.html>
- ⑤ **E-Rare Books** (Thammasat University)
<http://library.tu.ac.th/newlib2/newweb/rarebook/rarebook.html>
- ⑥ **จลสารสตรีศึกษา** [女性学研究雑誌] (Women's Studies Center, Chiang Mai University)
<http://www.soc.cmu.ac.th/~wsc/pamphlet.html> V.15, No.1 ; 2545(1992) ~
- ⑦ **Thammasat review**
<http://www.tu.ac.th/resource/publish/interview/vol10.html> Vol. 4; 1999 – Vol. 11; 2006
- ⑧ **วารสารเศรษฐศาสตร์ธรรมศาสตร์ =Thammasat economic journal**
<http://oldweb.econ.tu.ac.th/journal/Index.html>
 Volume 24 Number 2 June 2006 – current
- ⑨ **วิทยสารเกษตรศาสตร์ (Social sciences)=Kasetsart journal (Social sciences)**
<http://www.rdi.ku.ac.th/journal.html> Vol. 17 ;1996~ current
- ⑩ **Discussion Paper** (Chulalongkorn Economics Research Center)
<http://www.econ.chula.ac.th/publication/dpaper.html> 1981-1985, 1987-1993 英文又はタイ語
- ⑪ **TDRI** <トップページ>
<http://www.tdri.or.th/>
- ⑫ **KPI**<トップページ> 英語 <http://www.kpi2.org/kpien/> タイ語 <http://www.kpi2.org/kpith/>
Publications
http://www.kpi2.org/kpien/index.php?option=com_content&task=blogsection&id=7&Itemid=28
- ⑬ **ราชกิจจานุเบกษา** [官報]
<http://www.ratchakittha.soc.go.th/RKJ/announce/newrkj.jsp>

● オープンアクセスの事例―研究機関

大学以外の研究機関では、政策研究機関として二〇年以上の歴史を持ち数多くの研究プロジェクトを実施してきた TDRI (タイ開発研究所) が、かなり多くの出版物を全面公開している。TDRI のサイト

のトップページ (⑪) で Research & Publications のタブを表示させると、一番上に By Topics という項目があるが、そこから分野別の報告書のリストを開くとフルテキストで見られるものに印が付している。TDRI Quarterly Review は過去の記事すべて、TDRI Reprint series もほとんどすべて (約六〇点) が全文閲覧可

● 官報

能である。このシリーズには大学学術誌初出の論文も含まれている。TDRI が毎年実施している Year End Conference の報告書は公開していないが、最新の二〇〇八年のものは全文公開されており、同サイトトップページの目立つところに表示されている。また、民主主義の発展のために国会議員によって一九九五年に設立された King Prajadhipok's Institute は、点数は少ないが年鑑以外の出版物をフルテキストで公開している (⑫)。

最後に学術文献ではないが、タイ研究のための重要資料として官報 (Ratchakittha-Indeksa) (⑬) をあげておきたい。一三〇年余りの歴史を持つタイ官報は、その古い号の劣化が危惧されていたが、これが三年前にデジタル化され、一八八四年の創刊号から最新号まですべてインターネット上で全文閲覧可能となった (第二巻、一八八五年五月〜一八八六年四月は欠号)。最古号は文字が薄かったり補修テープの影がついていたりしてほとんど読めない部分もあるが、ほかはほぼ良好な状態である。別記 URL の画面左の目次 (Saraban) を開け、「検索」をクリックすれば、刊行年、巻号、用語等による検索画面が表示される。
 (いしい みちこ) / アジア経済研究所 図書館)